

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100247		
法人名	医療法人社団 甲有会		
事業所名	グループホームアネシスもとやま		
所在地	神戸市東灘区本山南町6丁目3-5		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くにスーパーなどもあり生活の場としては申し分ない立地です。毎日の散歩では公園へ行ったり、職員と利用者と一緒にスーパーへ買い物に出かけたりと、環境に恵まれているからこそ出来る事は出来るだけするようにしています。また、地域福祉センターも近く、地域のお祭りに参加したり、地域との付き合いも大切にし、地域の中のグループホームとして共に協同していています。
また、小規模多機能型居宅介護と併設しており入居相談で来られた方へも、適正をみてご提案をさせて頂いたりしております。一つの視点だけではなく、違う視点での提案もさせていただきご家族様・ご本人様の選択肢も広がるハードを持っております

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にスーパーや公園がある静かな住宅地に位置する、小規模多機能型居宅介護併設のグループホームである。リビングはゆったりと明るく清潔感があり、利用者が思い思いの場所でくつろいで過ごせる環境がある。立地を活かして日常的に散歩や買い物に出かけ、また、定期開催のふれあい喫茶や、季節イベントの夏祭り・クリスマスコンサート・餅つき大会等地域の催しに積極的に参加し、利用者が地域と交流できる機会を数多く持てるように取り組んでいる。「防災コミュニティ」「認知症ネット」に参加し、事業所としても地域の一員としての役割を担っている。計画的、継続的に職員研修に取り組み、職員の育成にも注力している。定期的な医師・看護師等の往診・訪問があり、法人としてのバックアップ体制も整備され家族に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の浸透は完全ではない。	法人の社是・経営理念・基本方針を各フロアや事務所に掲示し、また、正規職員への登用試験に採り入れて、内容の理解と共有に努めている。基本方針の中に、「住み慣れた地域でその人らしい生活を自立して営めるようサービスを提供する」という地域密着型サービスの意義を明確にしている。事業所の経営計画に理念を実践するための目標を採り入れ、評価と見直し・年度末の総括を行い、計画的に理念の実践に取り組む仕組みがある。婦人会主催の「ふれあい喫茶」への参加で地域とのつながり強化に努める等、理念の実践に向け取り組んでいる。	理念を実践につなげる具体的な取り組みを職員参画の下で継続的に行い、理念の浸透につなげることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・婦人会主催のふれあい喫茶やクリスマスコンサートに参加し、地域交流を図っている。	地域の自治会に加入し、ふれあい喫茶やクリスマスコンサートに参加している。朝食用の食材やおやつの買い出しは利用者と共に近隣の店舗を利用し、散歩時には地域の人達と日常的に挨拶を交わし合っている。地域の夏祭りには準備段階から、また、餅つき大会等に利用者と共に参加している。ふれあいのまちづくり協議会・自治会・民生委員等も参加する「認知症ネット」に実行委員として参加し、地域住民へ認知症理解への啓発や、地域活動計画等を話し合っている。自治会主催の防災コミュニティへ参加して、地震対策を話し合い、また、年2回地域の清掃活動に参加する等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。地域住民が気軽に来訪できるよう、事業所内でのブックカフェの運営を計画している。	

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第1金曜日に運営推進会議を開催し、活動内容の報告、取り組んでいきたいこと、地域の皆様、家族様などからの意見などの話し合いを行っている。	家族・自治会長・ふれあいのまちづくり協議会代表(地域代表)・地域包括支援センター職員・知見者として他の事業所職員等が参加して、2ヶ月に1回定期的に開催している。利用者も時には短時間参加している。全家族に案内状を送り、参加できない家族からも意見・提案が出せるよう「意見欄」を設け、議事録は全家族に配布している。会議では、利用者の状況や、研修・事業計画・ふれあい喫茶への参加等事業所の取り組みについて、写真を見てもらいながら報告し、参加メンバーから意見や提案を聞いている。昼間にビデオ鑑賞の時間を採り入れたり、水分補給を排便コントロールに活かす等、そこでの意見・提案をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、東灘区のグループホーム連絡会で地域包括の職員と会う機会があり、協力関係は築けていると思う。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通して、事業所の状況や取り組み等を伝えている。市の職員も参加する東灘区グループホーム連絡会や認知症ネット等でも情報交換や交流を行っている。市の担当者に福祉的支援を要する利用者の支援方法を相談をしたり、市の保健師から感染症情報や対応方法の助言を受ける等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己 評価	第 三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部の職員は「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解できていないが、身体拘束をしないケアは努めている。玄関等離設の恐れのある所については施錠を行っている。	事業所の年間研修計画に年2回の「身体拘束・高齢者虐待」研修を盛り込み、1回はDVD視聴、1回は講座形式で学ぶ機会を設け、受講後は研修レポートの提出を義務づけている。参加できなかった職員にもDVDの視聴と資料の閲覧を行って、レポートの提出を義務づけている。月1回、「接遇・虐待防止委員会」を開催し、月毎に「有難うスマイル月間」等目標を定め、スピーチロック等の不適切ケアの未然防止に努めている。また、職員から見て気になる対応があれば、お互いに注意し合い、委員会でも検討して、職員にフィードバックしている。	2・3Fのエレベーターや、1Fドアがカードロックされていることについて、鍵をかける事の弊害や、鍵をかけない暮らしの大切さについて話し合う機会を持続することが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の虐待防止の勉強を実施している。 また、言葉の虐待に関しても職員の認識が薄くなる事があるので、接遇面研修の実施や賞賛制度にて、介護側のストレスマネジメントに努めている。神戸市作成のDVDを職員全員が一度は観て、リス委員会やフロアミーティングの場で意見交換を行い、開けた環境作りに努めている。 入職時に神戸市作成のDVDを観ていたいただき、本部主催の中途採用者対象の研修を受けて頂いている。	上記の研修と委員会で学びと検討を行い、高齢者虐待防止に取り組んでいる。3ヶ月毎に、全職員が虐待等不適切ケアに関する自己チェックを行い、それを基にモニタリングを行っている。言葉による虐待に関しては、接遇研修の実施や賞賛制度、懇親会等を取り入れて、職員のストレスマネジメントに努めている。入浴時更衣時等には利用者の身体状況に留意し、自宅や事業所内での虐待が見逃される事のないよう注意を払い防止に努めている。	

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。 後見人制度について、ご家族様へのご提案を行った事はあるが、知識はまだまだ足りない。 職員・ご家族様が閲覧しやすい場所にパンフレットを置いて、情報の入り易い環境に努めている。	管理者が参加した外部研修の資料を職員に配布しているが、職員が研修等で理解を深めるには至っていない。現在成年後見制度を利用している人や利用相談を受けている人があり、活用できるよう支援している。成年後見制度の手続き方法や連絡窓口等が記載されているポスターをエレベーターホール前に掲示したり、パンフレットを玄関に備え付け啓発に努めている。	制度活用が必要な利用者に対して、適切な支援ができるよう、職員が制度の理解を深める取り組みが期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、同意を得ている。	契約前の見学時等にパンフレットを用いて概略を説明し、契約時には管理者が質疑応答を交えながら丁寧な説明を心がけて、同意を得ている。利用料金の変更等で契約書の内容を改定する時は、運営推進会議で説明し、文書を送付して同意を得ている。解約時には、家族や病院・施設などへの必要な情報を提供する等、円滑な退居のための支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、苦情があった際は早急に対応し、家族・利用者へ報告している。	家族来訪時には利用者の近況を報告し、また、毎月郵送する「アネシスもとやま便り」で利用者毎の暮らしぶりを伝え、意見・要望等が出やすいよう努めている。また、全家族に運営推進会議への参加を呼びかけ、案内状に意見欄を設けて意見・要望等の把握に努め、会議後に懇談会を実施している。ご意見箱の設置場所や案内掲示に配慮し、投函しやすいよう工夫している。家族からの、インターホン対応時のセキュリティ強化への要望に迅速に対応する等、意見・要望を運営に反映させている。対応結果は家族に郵送でフィードバックし、職員間でも共有している。	

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階の会議には出来るだけ参加して、職員の意見を聞くようにしている。	管理者は、日々の業務の中で職員の意見や提案の把握に努めると共に、フロア会議や各委員会に出席し意見交換や検討を行っている。年2回定期的な個人面談制度を採り入れ、意見や要望の把握に努めている。内容に応じて法人会議で伝える機会もあり、「副理事長110番制度」・「甲有会ダイレクトライン」・「管理者評価制度」により、職員の意見が法人に届く仕組みが整備されている。職員の希望等により異動が行われる場合も、ユニット間や小規模との合同レクリエーションで馴染みの関係を作り、利用者に影響を与えないよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、職員の声を聞く機会を設けたり、条件等も整備されてきている。近隣の事業所ごとに、親睦会が開催されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間計画を立て、実施している。外部の研修に管理者と職員で、参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会はある。他施設への訪問の機会を作り、視野を広げて頂く様努めている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、本人のアセスメントを行い、その情報を職員に周知し、安心した生活を提供できるようにしている。また、信頼関係を築く為に寄り添い、本人の思いやニーズをつかみ支援するようにしている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人以外に入居前からご家族相談を行っています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要と判断した場合、検討しています。 また、介護保険の仕組み等をご存じでない方いらっしゃるのので、各サービス内容の違いなどのご説明をさせて頂いております。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者同士として、出来る限り一緒に活動を取り組んでおります。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の相談時にお話をさせていただいてます。また、月間報告で1カ月の様子をご報告させていただいてます。変化等あれば電話で近況をご報告させていただき、ご家族様にとって、近い存在である事を意識させていただいております。			

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員には出来ていない。 一部の入居者様は在宅時の主治医の継続や在宅時の近隣の方達が面会に来られていますが、施設側の努力ではなくご家族様のご協力で行えている。	入居時には、家族記入の「私の歴史と暮らし方シート」で馴染みの場所や人についての情報の把握に努めている。入居後日々の関わりの中で把握した情報は「介護記録」に記録として残し、職員間で共有している。知人・友人来訪時には居室やフロアでゆっくり過ごしてもらえるように配慮し、馴染みの理容店への送迎、小規模多機能事業所の利用者との交流等、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	今後とも、利用者の馴染みの人や場所についての情報収集に努め、大切にしてきた関係が継続できるように個別支援に取り組まれることが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑にいくように、席の配置や職員が間に入るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談は随時受け付けております。 施設でご逝去された、ご家族さまへは運営推進会議のご案内をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活ができるようにご本人・ご家族様から情報収集に努めております。	「私の歴史と暮らし方シート」、「面接シート」の本人や家族の意向欄を活用し、思いや意向を把握し共有している。また、日々の関わりの中で把握した思いや意向は「介護記録」に記録として残し、家族とも話し合いながら介護計画に反映させるよう取り組んでいる。意思の疎通が難しい利用者は、家族の意見を参考に、日々の観察から表情や反応に留意し、本人の立場に立って職員間で話し合っている。耳の不自由な利用者には耳元でゆっくり話しかける等、個別のコミュニケーション方法を職員間で共有している。	

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の契約時や入居時にアンケートやヒヤリングを行い、把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報の共有を行っている。また、残存能力を見極めメンタル面での自立支援に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期にてカンファレンスを各階1回ずつ実施しています。 それ以外でも、必要に応じて話し合い・見直しをおこなっています。	基本的には3ヶ月ごとに介護計画を作成している。計画書のサービス内容に沿ったモニタリング表を用いて、短期目標達成度等について毎月モニタリングを実施している。モニタリングを基にカンファレンスを行い、次の計画に結び付けている。計画の作成に当たって、本人・家族の意向を踏まえ、担当職員の気づきやかかりつけ医・看護師・歯科医師・理学療法士等とも相談しながら作成している。利用者の状況や家族の意向が変化した時は、随時現状に即した計画を作成している。	計画の更新毎に再アセスメントの実施が望まれる。また、モニタリング実施に当たっては、「介護記録」等の記録がモニタリングの根拠になるように、記録方法の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を記録に残し、情報共有に努め、見直しに努めてケアに活かせるように行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に訪問リハビリを現在、導入しています。随時必要に応じて、ご家族様と相談の上で検討しています。		

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会が活発である為、イベントなどには参加させていただいている。 見守り推進員より、麻雀パイなどを借りたりし、助けていただいております。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を誰にするかをご本人・ご家族様のご意向に沿って支援しています。 1部の方ですが、整形のリハビリ・主治医への受診の付き添いを行っております	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望する医療機関での受診支援を行っている。内科は2か所の往診医から選択できる体制がある。また、希望者には歯科医師の往診がある。往診医以外の通院同行は基本的には家族が行うこととしているが、状況に応じて事業所が臨機応変に対応している。家族による通院同行時には、書面又は口頭で本人の受診支援に関する情報を伝えている。受診結果等医療に関する記録は、往診分・通院介助分共に「介護記録」に、看護師は青字で、介護職は黒字で記録として残している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設在籍の看護師が週2日ほど出勤しています。相談はもちろんの事、勉強会も開催してもらっています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中と医療機関との情報交換等を実施している。 3～4か月に一度は訪問・電話にて連絡を取り関係が途切れないように努めている。	入院時には事業所からは「看護サマリー」等で、医療機関に情報提供している。入院中は見舞いに行き、病院関係者と情報交換を行い早期の退院に向けて連携している。退院時には「看護サマリー」の提供を受けて、退院後の事業所での支援に活かしている。	

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時・終末期における指針を入居前に説明をし、同意を得ている。	事業所としては、基本的には、積極的に看取りを行わない方針がある。契約時に「重度化した場合の対応に係る指針・同意書」で重度化した場合の方針を説明し、家族の意向を確認しながら同意を得ている。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医等を交えて支援方法などを繰り返し話し合い、「介護記録」に記録として残している。家族と話し合ったことは「相談記録」にも記録として残している。家族と支援方針を共有しつつ計画書の見直しを行い、かかりつけ医・看護師等と共に支援に取り組んでいる。年間研修計画に「ターミナルケア」研修を採り入れ、実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して、緊急時の対応方法について理解してもらっている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。 月に一度の委員会にて避難経路など災害時に関連する事柄を話し合いを行い、職員間の意識付に努めている。	年2回、火災・津波等災害時の訓練を利用者も参加して小規模事業所と合同で実施している。火災訓練は、夜間帯出火想定で避難誘導・消火・通報訓練を行っている。災害訓練は、津波想定で避難階段から利用者を誘導する訓練を行っている。リスクマネジメント委員会で避難経路など災害時に関連する内容を話し合い、職員間の意識付けに努めている。自治会主催の防災コミュニティに参加して地震対策を話し合い、運営推進会議を通じて、地域への非常災害時の協力依頼を呼びかけている。食料・水・缶詰等の備蓄も行っている。	夜勤専従職員も参加して実践的な訓練を積み重ね、全ての職員が昼夜を問わず利用者を避難できる方法を身に付けておくことが望まれる。

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を傷つけないような声掛けに注意を払っているが、ときどき言葉がきつくなる時があります。	事業所の年間研修計画に「接遇」「個人情報保護」を採り入れ、継続的に研修を実施している。日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に留意し、気になる対応については管理者から注意を促している。個人記録類は各フロアの鍵のかかるキャビネットに保管して、個人情報の適正な管理に努めている。便りや事業所内に掲示している写真については同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の思いや希望、自己決定が出来るように環境・雰囲気作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れは決まっていますが、その人たちに合わせて臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、訪問カットを利用しております。		

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	昼・夕は業者に食材を発注している、盛り付 け・片付けは一緒に行ってます。 おやつなどを何にするか決める時に、ご意 向をうかがい、食べたいものを召し上がって いただけるように努めている。お誕生日な ど、対象者の方の名上がりたい物を、食材 購入から提供をしている。	朝食は利用者と一緒に食材を買いに出かけ て、食事づくりを行っている。昼・夕食は委託 業者から半調理の形で食材が届けられ、各 フロアで仕上げています。炊飯、みそ汁作りは 各フロアで行い、食事づくりの一連の流れの 中で、盛り付け・食器洗い・片付等は利用者 が参加できるように取り組んでいる。委託業 者が月1回程度来訪し、利用者の摂食状況 や要望を伝え献立等に反映させている。ビー ル等の嗜好品を楽しんでいる利用者もいる。 テーブル席・カウンター席があり、好みの場 所で気の合う利用者同士で食事を楽しんで いる。おやつや誕生日の食事は利用者の希 望を採り入れ、また、外食の機会も設けてい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	チェックリストを作成し、食事量・水分量の把 握を行っている。食事量が少ない方へは、 お好きな物を提供したり、補助食品も利用し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアを行っている方もいる が、全員には出来ていない。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パン・夜間はリハパン等、個々に 合わせて使い分けを行っている。排泄パ ターンを把握し便器での排泄をしていただ けるように支援しているが把握できていない方 もいる。	「ケアサービス管理表」で、利用者の排泄状 況・パターンを把握し、声掛け・誘導によりト イレでの排泄を支援している。個々の利用者 の状況を話し合い、時間帯によって排泄用品 を調整しながら、安易におむつ類に移行しな いように取り組んでいる。トイレ誘導時の声 掛けや内カーテンを必ず閉める等、プライバ シー確保に配慮している。	

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品・ミカンなど個々に合わせて摂取していただき、便秘改善に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めています。拒否や体調不良によっては臨機応変に対応しています。	基本的に週2回、午前または午後の時間帯で、希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。異性介助を嫌がる人には同性で対応し、また、入浴を嫌がる人には、嫌がる理由を理解して誘導方法を工夫して支援している。利用者の状況によっては、小規模多機能事業所の機械浴を利用することも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマの更衣をしていただいた後は、入眠を促しますが、個々に合わせて環境整備をおこなったり、ゆったりと過ごしていただけるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局と連携し、薬の詳細の説明・指導を受けてます。 お薬の説明書を頂き、全職員が薬に関して把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お買い物に出かけたり、家事援助やレクリエーション等も日々行っています。		

自己 番号	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候により実施できない場合もあるが、なるべく散歩・買い物に行く事が出来るようにしています。	天候や利用者の希望・状況に応じて、近くの公園への散歩・スーパーへの買い物・ペットショップ・喫茶店・外食等に出かけられるよう努めている。ふれあい喫茶・クリスマスコンサート・夏祭り・餅つき大会等、地域の行事や催しにも参加している。戸外での移動に車いすが必要な人も、均等に外出できるよう支援に努めている。	普段は行けないような場所でも、利用者の希望を把握し家族等の協力を得ながら出かけられるよう支援することが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物も、出来る方に支援している。一部の方はお金を所持しておられる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は出来るだけ自由に使用してもらっております。希望がある方には、電話が出来るようにお手伝いをし、携帯電話を持ち込まれている方もいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には緑を置いております。居間にはテレビを置きくつろげるスペースを作り、食堂では馴染みの音楽を掛け、季節に合った飾りつけを行っております。	玄関に観葉植物等を置き、エントランスには来客に対応できるイスやテーブルを配置している。リビングはゆったりと明るく、清潔感がある。テーブル席・カウンター席・ソファ等を設置して、利用者が思い思いの場所でくつろいで過ごせるよう配慮している。リビングには利用者と一緒に作ったクリスマスツリーを飾りつけ、季節感を採り入れている。キッチンでの食事づくりの音、匂い等が五感刺激になっている。	

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやカウンター等で、それぞれの方達が、思い思いに過ごされておられます。 1人になれる空間はありません。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に入居前に馴染みの家具や仏壇等の持参をお願いしており、入居者個々の好みや趣味が活かされた空間作りがなされている。	家族の協力を得て、使い慣れた家具や、仏壇・時計等思い出のものが持ち込まれ、好みのカーペットを敷く等居心地よく暮らせるよう工夫している。持ち込みが少ない利用者には、利用者が事業所で作成した作品を飾る等、居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや物の置き場所に名前シールをはり、それぞれの場所が分かりやすいようにしています。		